

《フィールドだより》

「経済研究会」におけるフリーペーパー作成活動

大 倉 真 人

1. はじめに

本資料は、筆者が顧問教員をつとめている「経済研究会」における活動をまとめたものである。経済研究会は、同志社女子大学現代社会学会に所属する研究会の1つであり、学生の自主的な学習・学びの場として提供されているものである。

そして本資料は、主として2016年初頭から2016年8月に実施した夏合宿までの経済研究会における活動報告を目的としている¹⁾。その上で、この期間における経済研究会の主たる活動が「フリーペーパー作成にかかる活動」であったことから、本資料においても、この「フリーペーパーの作成にかかる活動」に主たる焦点を当てて述べていくこととする²⁾。

なおこの活動に従事した経済研究会のメンバーは、2014年度入学生(2016年度における3年生)9名、2015年度入学生(2016年度における2年生)4名の計13名である。ただしこの13名のうち、2016年度開始時点(2016年4月1日時点)におけるメンバーは、2014年度入学生6名のみであり、残りの7名(2014年度入学生3名および2015年度入学生4名)は、2016年度になって新規入会したメンバーである³⁾。それゆえ、次章において述べる2016年3月に実施した春合宿の時点では、6名のみがメンバーとなっている。

また以下では「フリーペーパー作成にかかる活動」について、原則として時系列的に述べることにする。なお「原則として」と付記したのは、「5. 毎週の活動について」は継続的・日常的な活動について述べる章であることから、前後の章との関係が必ずしも時系列になっていない箇所があることを指している。

2. 春合宿の実施

経済研究会は、2015年11月に行われた学園祭(EVE祭)において、お茶にかかる研究報告(模擬店を出店した上での研究報告パネルの展示)を行った。そして学園祭が終わった12月以降、今後の経済研究会の活動についての議論が行われた。その中では、お茶にかかる研究を継続して続けていくのが良いのではないかという意見が出る一方で、別のテーマを見つけた上で別種の施設見学等を行ってみたいかどうかという意見も出された。さらには、施設見学以外のテーマを見つけてみるのはどうかという意見も出た。しかしながら、このような議論は重ねたものの、経済研究会内での意見統一には至らない状況が続いた。年間活動目標を決めることの重要性は否定しないものの、その議論自体に時間を浪費することは生産的ではなく、かつ新年度(2016年度)のスタートとともに行われる新規メンバー勧誘についても考える必要があった。

幸いにも、3月に春合宿を実施したらどうかという話が出ていたことから、この春合宿の場

において、各メンバーが「自分が取り組みたいと思うテーマ」を持ち寄った上で、パワーポイントでプレゼンテーションを行うこととした。そして、そのプレゼンテーションの内容をもとに、新年度(2016年度)における活動目標を樹立することとした。

そしてその春合宿であるが、2016年3月21日(月(祝))・22日(火)の両日に京都府宮津市にある「京都府立青少年海洋センター(マリンピア)」にて実施した⁴⁾。参加メンバーは、5名(よって1名欠席)プラス顧問教員である筆者の計6名であった。各参加メンバーにおける「自分が取り組みたいと思うテーマ」のプレゼンテーションだが、発表時間は約10分とし、発表の後でその内容にかかる質疑応答の時間を適宜設定した。そして、その場でプレゼンテーションされたテーマの内容は、和菓子店やヨーグルト工場の訪問・見学、就活に備えた企業研究、地域活性化に向けた取り組みの研究、フリーペーパーの経済面での効果分析および作成、であった⁵⁾。これら5つのテーマを見て明らかのように、各メンバーが提示したテーマには少なくないギャップが存在していた。そこで、これら提示されたテーマをどのようにしてまとめるかが新たな課題となった。

これを受けて、提示されたテーマをベースに、プレゼンテーションの後、今後の経済研究会における具体的な活動目標決定に向けての議論が行われた。なおこの議論の際には、(1)各メンバーから出されたテーマをできるだけ多くかつ広域的に包含できるものを探ること、(2)新年度(2016年度)になってから入ってくるかもしれない新しいメンバーが別のテーマで活動したいと言ってきたときにその活動が行える余地を残すこと、に注意を払った。そして最終的に、出てきた内容を複合的に包含すると思われる「京田辺の魅力を伝えるフリーペーパーを作成する」というのが出された。この意見は、上記(1)(2)に合致していると思われることに加え、他のメンバーから「楽しそう」「興味がある」「やりがいがありそう」などのように肯定的に評価されたことなどから、新年度(2016年度)における経済研究会の活動目標として「フリーペーパー作成」を掲げることが決まった。より具体的には、2016年11月に行われる学園祭(EVE祭)において模擬店を出店し、その場において作成したフリーペーパーを配布することを計画した。

3. 京田辺まち歩き

春合宿において「京田辺の魅力を伝えるフリーペーパー作成」を活動目標に掲げたこともあり、「まずは自分たちが京田辺について知る必要がある」との見地に立った。より具体的には、京田辺を実際に自分の足で歩き、自分の眼で見る機会を設けることとした。また同時に、この「京田辺まち歩き」の企画を新入メンバー勧誘のための企画とすることとした。

この「京田辺まち歩き」は5月14日(土)に行われた。具体的にはJR三山木駅を起点としたまち歩きを行った。なお、5月中旬という比較的暑くなる時期での開催であったことや長時間だと疲れが蓄積すること等を考慮して、途中での休憩を含めて3時間程度の企画とした。またスムーズにこの企画を進めることを目的に、5月4日(水(祝))に下見を実施した。なお顧問教員である筆者は下見・本番の両方に参加した。

なお具体的なまち歩きのルートは、「JR三山木駅」→「普賢寺ふれあいの駅(産地品直売所)」

→「舞妓の茶本舗」→「観音寺」→「JR 同志社前駅」であった。ただしこのルートは、散策の「目的地」を記載したのみであり、当日のまち歩きでは、観光スポット等ではないもの(例えば「自由乗降」と示されているバス停など)などについても見て回った。さらにこのまち歩きに連動して、「自分にしか見つけられないものコンテスト」を行った。このコンテストは、「自分しか見つけていないだろう」と思うものを1つ(以上)写真撮影し、後で発表するという企画であった。このコンテストは、何かを発見することに対する意識を高めると同時に、ゲーム感覚で楽しくまち歩きができるようにするための工夫であった。

そしてこのまち歩き企画において、今後のフリーペーパー作成との関連で特筆すべきは、「舞妓の茶本舗」である。事前下見の際、下見のメンバーで「舞妓の茶本舗」に立ち寄ったのだが、その際、同店舗の店員にまち歩き企画についての簡単な説明をしたところ、「事前に来る日時を言ってもらえれば、(本番の日に)京田辺玉露についての説明等を行うことができる」と言われた。これを受けて、まち歩き本番の日に、「舞妓の茶本舗」において、同店舗店員より京田辺玉露に関連する様々な事柄について聞く機会を得た。さらにその席上、経済研究会のフリーペーパー作りに対する助言として、京田辺地域の生活情報を掲載したフリーペーパー「ぐってい」の編集長を紹介してもらうことができた⁶⁾。

4. 「ぐってい」編集長との会合

春合宿において「京田辺の魅力を伝えるフリーペーパーの作成」という目標を掲げたものの、顧問教員である筆者を含めて、フリーペーパー(あるいはそれに類似した冊子等)を作成した経験を有するメンバーはゼロというのが実状であった。日頃手にしたり、目にしたり、利用したりする機会が多いフリーペーパーだが、「どのような手順で作成すればよいのか?」「どのような点に注意を払って作成する必要があるのか?」などといった基本的知識は皆無と言って良く、手探り状態での検討が続いていた。

そこで、「舞妓の茶本舗」の店員より紹介を受けた「ぐってい」の編集長から話を聞くと同時に、メンバーの疑問等に応じてもらう機会を設定した。そしてこの機会を通じて、今後どのようにフリーペーパーの作成活動を行うべきかについての知見を得ることとした。具体的には6月21日(火)および28日(火)の2回にわたって会合が行われ、フリーペーパーの作成手順(作業の進め方)などについて丁寧に教えてもらう機会を得た⁷⁾。またこの会合は、読者層(ターゲット層)の決定の重要性についての言及や、文字の色や写真の配置等における工夫、編集などにおいて使用すべきソフトウェアについての説明などといったような技術的な側面について学ぶだけでなく、フリーペーパーを作ることの大変さ、そしてこれに関連してページ数をどの程度にすべきなのかなどについて考える機会ともなった。

5. 毎週の活動について

昨年度(2015年度)以降、経済研究会における定期的な活動は、毎週火曜日のランチタイムに行われていた。2016年度においても、原則として、毎週火曜日のランチタイムに集まって活動を行った。そしてこの毎週火曜日の活動におけるフリーペーパー作成に関連する作業として明



写真1 KJ法による検討

記すべきことは、以下の2つである。

1つめは、フリーペーパーにどのような内容を盛り込むかについての検討である。「京田辺の魅力伝える」という大枠は決まっていたものの、具体的にどのような内容をフリーペーパーに含めるのか、あるいはフリーペーパーの見た目をどのようにするのか(読者に手にとってもらう・見てもらうための外形的工夫をどのように行っていくか)といった点について詰めていく必要があった。そしてこの作業は、フリーペーパー作成の骨子となることもあり、学年などを問わず自由に意見を出してもらいながら進めていくべきであるという考えに至った。そして、このような考えをベースにメンバーが採用した手法が「KJ法」であった。具体的には(写真1)に示したような形で進められ、付箋に自由に意見・キーワード等(単語でも可)を書いてもらい、それを用意した模造紙に貼り付けていった。その後、ある程度の数の付箋が出そろった段階で、同じあるいは類似した付箋の整理・統合を行うことで、経済研究会全体における見解がどのようなものであるかについて明らかにした。

2つめは、「KJ法」によって明らかとなった見解をもとに、いくつかの班に分けた上で、班ごとにテーマを決めて調査を進めることにした点である。より具体的には13名を6つの班に分けた上で、例えば「グルメ」「お茶」「観光」「自然」などといったテーマを設定し、それらのテーマに沿った調査を行うこととした。なおこの班分けについては、2名の班が5つと3名の班を1つとした上で、2名の班については、学年間の交流促進等を目的に、2年生と3年生とで構成した(ただし、3年生9名、2年生4名であったことから、1つの2名班および3名班は3年生のみで構成された)。そして調査や取材などを各班の責任で進めてもらい、その作業進捗状況等を毎週火曜日ランチタイムのミーティングにおいて報告してもらうことにした。

6. 夏合宿

前章において、毎週火曜日のランチタイムのミーティングにおいて各班の作業進捗状況等について報告してもらうことにしたと述べたが、実際にはこの報告が十分になされているとは言

い難い状況にあった。その理由としては、(1)ランチタイムの時間が各班の報告を実施するには短時間(45分)であったこと、(2)フリーペーパー作成以外にも経済研究会として活動・検討すべき事柄があったこと⁸⁾、(3)春合宿においてフリーペーパー作成を目標に掲げた時に考えていたよりも作業量が多く、多岐にわたる慎重な検討が必要とされたこと、などがあげられる。これに対する対応策として、毎週火曜日のランチタイムのミーティング時間以外にも集まれる人だけ集まる機会を設けるなどしたが、対応した時期が春学期(前期)の終わる少し前である7月上中旬ごろであったことから、対応した期間が短くなってしまったこともあり、十分な効果が得られなかった。

以上のような状況を受けて、夏合宿を行った上で、フリーペーパー作成にかかる作業について長時間かつ集中的に議論することとなった。具体的には、8月14日(日)・15日(月)の両日に滋賀県高島市にある「一二三館」で夏合宿を行った。なお参加メンバーは、10名プラス顧問教員である筆者の計11名であり、欠席した3名はいずれも3年生メンバーであった。

夏合宿における議論は、途中で休憩時間を挟むことなく、ほぼ4時間にわたって行われた。その意味において、長時間かつ集中的に議論するという目標は達成できたと理解できる。そして、この議論の内容について述べれば、以下のようになる。

議論は6つの班それぞれからの進捗状況報告からスタートした⁹⁾。その中で、1つの班からは、調べていくうちに別の班のテーマと似てきたあるいは同じになってきたことから、班を合併したいという見解が出たりした。別の班からは、同志社女子大学生にアンケートをとってみて、そのアンケート結果を掲載するコーナーを設けてみることを検討しているという意見も出た。

また議論を進めていく中で、「作成するフリーペーパーの読者層(ターゲット層)について明確に決めておく必要がある」という意見が出された。一口に「京田辺の魅力を伝える」と言っても、「誰に」「どのような目的で」伝えるのかという点については、班の違いに関係なく統一的な見解を共有しておく必要がある。そして議論の結果、『(京田辺の魅力を十分に認識していない)同志社女子大学生』を主たる読者層(ターゲット層)とした上で、『京田辺にはこんな良いところがある』ことを知ってもらう目的でフリーペーパーを作成する」とこととなった。

さらに議論を展開していくうちに、各班が検討してきたテーマが「食べる」(お茶やパンに関連した店舗の紹介など)と「見る」(寺および寺におけるライトアップイベントの紹介など)に大別できるのではないかということが浮かび上がってきた。しかし「2つ」は少なく、できれば「3つ」あるいは「4つ」くらいの「食べる」や「見る」に並列可能なキーワードおよびそのキーワードに関連したテーマを足すことはできないかという意見が出た。この意見をもとに検討した結果、先に出てきた同志社女子大学生に対するアンケート結果の提示が「知る」というキーワードで示すことができるのではないかということになった。

そしてこの件に関する議論を続けたことで、この「知る」に加えて「作る」というキーワードも良いのではないかということになった。なおこの「作る」というキーワードが登場した経緯については、以下のとおりである。作成したフリーペーパーは11月に行われる学園祭(EVE祭)にて配ることを予定している。そして、学園祭(EVE祭)に模擬店を出店する際には、何らかの

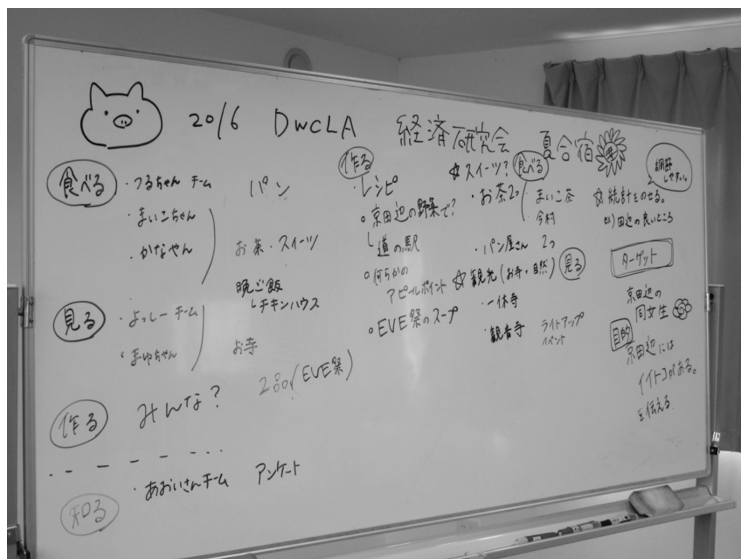


写真2 夏合宿における議論

食品等を販売することになる。これに関連して、京田辺で採れる野菜を使ったレシピを考え、そして「作る」をキーワードにそのレシピを掲載するのはどうかという意見が出た。この意見は、(1)学園祭(EVE祭)で掲載レシピと同じものを作って販売することから、模擬店とフリーペーパーとの関連性が高まる、(2)新たに取材先を増やすなどする必要がなく、時間的に見ても無理がない、(3)5月に行った「京田辺まち歩き」において立ち寄った「普賢寺ふれあいの駅(産地品直売所)」と関連づけられる可能性があると同時に、京田辺産の野菜等の魅力を伝える機会となり、フリーペーパー作成の主旨にも合致する、などの点において高い妥当性を有するものとされた。

以上の議論を経て、「食べる」「見る」「知る」「作る」の4つをキーワードとしてフリーペーパーを作成していくことが決まり、各キーワードをベースに各班を割り振った(その議論の様子等については(写真2)を参照)。そしてその後、それぞれのキーワードおよび全体に共有する掲載項目(表紙、編集後記、地図)に関して、どの程度の掲載スペースを割り当てるかについて決定するとともに、各班の原稿の提出期限を決定した。さらに、印刷業者や発行部数などについての検討を深めることを通じて、フリーペーパー作成にかかる予算などについての概要を示した。

7. おわりに

本資料では、主として2016年度における経済研究会の活動である「フリーペーパー作成にかかる活動」について示した。具体的には、「フリーペーパー作成にかかる活動」を目標として掲げる機会となった春合宿から、集中的に検討する機会となった夏合宿までの期間における諸活動を叙述した。

なお本資料は、2016年8月に実施した夏合宿における議論の内容までしか包含していない。それゆえに、フリーペーパー作成の最終段階とも言える10月および11月における作業の様子、

学園祭(EVE祭)当日における配布の様様、配布後の影響・反響などについては記載されていない。これらの点について述べることは、経済研究会が行っている(行ってきた)フリーペーパー作成作業の全容を伝える上で不可欠であると考えられるが、これらにかかる報告については、また別の機会としたい¹⁰⁾。

最後に、本資料で示した時期以降の活動については、経済研究会が運営しているブログ「同女経済研究会」において示されていることを付記しておく。

注

- 1) 経済研究会についてのより詳細な説明および2015年度における学園祭(EVE祭)までの活動については、大倉(2016)を参照。
- 2) この「フリーペーパー作成にかかる作業」について、計画を立案した段階では冊子体での刊行を目指していたが、脱稿日現在での見通しでは、1枚の紙を四つ折り等するなどの方式で刊行する可能性が濃厚である。その意味において、「リーフレット」と呼ぶ方が適切かもしれないが、作業の過程において「フリーペーパー」と呼んでいた経緯を踏まえて、本資料中では「フリーペーパー」と呼称することにする。なお「フリーペーパー」という言葉についての明確な定義は存在しないが、本資料では、「無料配布されている情報誌で、チラシとは異なるもの」と概略的に捉えることにする。なおこのような捉え方は、フリーペーパー作成活動に関わった経済研究会のメンバーの認識に一致するものである。
- 3) 新規メンバーの入会時期は各人で若干異なるが、本資料における記述に直接影響するものではない。
- 4) 以下、特に断りがない限り、示されている期日は全て2016年である。
- 5) 欠席したメンバーについてはプレゼンテーションを行わなかったが、参加したメンバーの1名が、欠席したメンバーの(簡単な)意見を代理的に述べた。
- 6) 「ぐってい」は、2016年1月に創刊された生活情報誌である。毎月発行されており、京田辺市全域および八幡市欽明台・美濃山を主たる掲載エリアとしている。総発行部数は38,000部(無料配布36,000部、無料設置2,000部)である。
- 7) ただし顧問教員である筆者は6月21日(火)の会合のみ参加した。
- 8) 具体的には、本資料においては言及しないものの、この時期において経済研究会が行った他の活動として、6月22日(水)に行われた現代社会学会総会での研究会活動報告、7月14日(木)に実施した自己紹介プレゼンテーション大会、8月5日(金)に実施した施設見学などがあげられる。これらの活動は、経済研究会の活動内容を在学生に知ってもらう良き機会となったり、メンバー間のさらなる交流のきっかけとなったり、施設見学を通じて学習することができたりなど、フリーペーパー作成とは異なった形での意義を得る良き機会になったと評価できる。
- 9) 欠席した3名はいずれも異なる班に属していたため、参加者ゼロの班は出現しなかった。
- 10) フリーペーパーが配布された後の反響の一例として、京都新聞(2017年2月16日朝刊)にこのフリーペーパーに関連した記事が掲載されたことなどがあげられる。

参考文献

- 大倉真人(2016)「『経済研究会』における活動報告－施設見学および事前・事後学習について－」『現代社会学フォーラム』No.12, pp.64-71。
- 「スイーツ、特産 京田辺の魅力満載 同女学生、観光パンフ作成」『京都新聞』2017年2月16日朝刊20面。
- 同女経済研究会：<http://ameblo.jp/economics-dwcla/> (2016年10月19日閲覧)

Keywords : 同志社女子大学, 現代社会学部, 現代社会学会, 経済研究会, フリーペーパー